

第14回アドバイザー・ボード会合の概要

「アドバイザー・ボード」の第14回会合の日時・出席者・概要等については、以下に示すとおりである。

日 時：2015（平成27）年2月18日（水）13時00分～15時00分

場 所：神戸大学六甲台本館3階大会議室

出席者：

アドバイザー・ボード委員（五十音順、敬称略）

井原理代、尾崎裕、北 幸二、高崎正弘、宮下國生、宮本又郎

研究科教員

國部克彦、忽那克彦、松尾博文、藤原賢哉、黄 磷、鈴木竜太、梶原武久、
村上英樹、上林憲雄、清水泰洋、栗木 契

概要

國部研究科長から、機能強化の三つの柱について報告があった。1は、イノベーションの創出、2はグローバルビジネスリーダーの育成、3はグローバル人材の育成であり、イノベーションの創出については、社会科学系と自然科学系の融合した新研究科を設置すること、グローバルリーダーの育成については、社会科学系のグローバルなビジネスリーダーをつくるために、Global Master Programs を設置することの説明があった。

また、現在、経営学研究科では、将来構想計画委員会を設置し、2回にわたって将来の構想を議論・検討している途中であること、文部科学省が運営費交付金を配分する枠組みを変えようとしていること、国立大学を三つに分類して、運営費交付金にめりはりをつけて配分していくという仕組みが提案されていること、大学を3分類にしていくという方向として、世界最高水準の教育研究の重点支援を行う大学、特定分野の重点支援を行う大学、地域活性化・特定分野の重点支援を行う大学の三つに分類し、3分類にして運営費交付金が分けられることについて説明があった。

また、新学長が出す予定の「武田ビジョン」が世界最高水準の研究大学を目指してやっけていくという方向であること、経営学研究科が世界最高水準の研究大学を目指すためになすべきこと、経営学研究科の伝統をどう発展させるか、文理融合研究の促進、教員組織の在り方の再検討について説明があった。

以上の概要説明を研究科長が行った後、主要な項目について、以下の通り報告がなされた。

第一に、科学技術イノベーション研究科という文理融合の新研究科をつくるということ、現在2016年4月からスタートする形で準備が進んでいることについて忽那憲治教授から報告がなされた。新研究科で育成する人材、イノベーションにつなげ事業化するコンセ

プトやプログラム、研究科の名称や学位の名称、人員の配置等について説明がなされた。

続いてSESAMI/GMAPsについて、その推進責任者である松尾博文教授から報告がなされた。まず経営学研究科のグローバル人材養成の取り組み、グローバルを語る時に押さえておくべきデータ、本年度のSESAMIプログラムの経過報告。それから、来年度からフォーマット、フレームワークが変わること、GMAPsの説明、SESAMIの位置付け、課題等について説明がなされた。

そして報告の最後は、MBAプロモーション活動についてMBA教務委員である黄磷教授から報告がなされた。神戸大学MBAの現状、現状に対する神戸大学MBAの対外発信力とブランド力強化について説明がなされた。

これらの報告の後、経営学研究科が取り組んでいる内容に関して、アドバイザー・ボード委員からアドバイスやコメント、更には出席者による活発な意見交換がなされた。